

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	音楽劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	<small>(こうざい)くにとち文化・スポーツ振興財団 (くにとち市民芸術小ホール)</small>	団体ウェブサイトURL	https://kuzaidan.or.jp/hall
代表者職・氏名	理事長 竹内光博		
制作団体所在地	〒 186-0003 東京都国立市富士見台2-48-1	最寄り駅(バス停)	JR南武線 谷保駅または矢川駅
電話番号	042-574-1515		
ふりがな 公演団体名	<small>(こうざい)くにとち文化・スポーツ振興財団 (くにとち市民芸術小ホール)</small>	団体ウェブサイトURL	https://kuzaidan.or.jp/hall
代表者職・氏名	理事長 竹内光博		
公演団体所在地	〒 186-0003 東京都国立市富士見台2-48-1	最寄り駅(バス停)	JR南武線 谷保駅または矢川駅
制作団体 設立年月	昭和62(1987)年11月		
制作団体組織	役員 理事長 1名、事務局長 1名 監事 2名、理事 5~8名、 評議員 6~10名、 ホール、郷土館、体育館館長各1名	団体構成員及び加入条件等 ホール、郷土文化館、体育館 各館に 職員・嘱託員等を配置。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	斉藤かおり
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	中島さゆり
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	saito@kuzaidan.or.jp		

制作団体沿革	<p>昭62(1987)年 公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団設立。 文化・スポーツ事業を企画実施して、市民の文化、健康の向上を図り、 地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的としている。</p> <p>同年 くにたち市民芸術小ホール 開館。</p> <p>以来、だれもが芸術文化に参加しこれを享受する権利を保障するため自主・共催事業(年間延べ約60本)および貸館事業を行っている。</p>	
学校等における公演実績	<p>【すべてアウトリーチ】</p> <p>平成21(2009)年度 音楽2校(小、中各1) 平成24(2012)年度 落語2校(小) 平成25(2013)年度 落語2校(小)、音楽2校(小、中各1) 平成26(2014)年度 ダンス1校(小)、パントマイム3校(小)、落語2校(小、中各1)、音楽1校(中・高) 平成27(2015)年度 音楽1校(小)、パントマイム2校(小)、能1校(小)、ダンス1校(小) 平成29(2017)年度 なわとび1校(小)、パントマイム2校(小、児童館)、落語2校(小、中各1)、ダンス1か所(児童養護施設) 平成30(2018)年度 音楽2校(中、児童館)、美術1校(小)、ダンス3校(中、小・中、大各1) 平成31(2019)年度 音楽3校(小、小・中、中各1)、縄跳び1校(小)、パントマイム1校(小)、ダンス1校(中) 令和2(2020)年度 音楽2校(小) 令和3(2021)年度 音楽2校(小) 令和4(2022)年度 音楽2校(小) ※演出家、演奏家についても、それぞれ学校等における活動実績多数。</p> <p>【巡回公演実績・10/8時点、予定を含む】</p> <p>令和4(2022)年度 小学校5校、養護学校(中)1校 令和5(2023)年度 小学校6校、養護学校(中)1校</p>	
特別支援学校等における公演実績	<p>上記のうち、</p> <p>平成29(2017)年度 落語1校(中学校特別支援級) 平成30(2018)年度 ダンス2校(中学校特別支援級、市小・中特別支援教室) 平成31(2019)年度 ダンス1校(中学校特別支援級) 音楽2校(中学校特別支援級、市小・中特別支援教室) 令和3(2021)年度 ダンス2校(中学校特別支援級、市小・中特別支援教室)</p> <p>【巡回公演】令和4(2022)年度 養護学校(中)1校 【巡回公演10/8時点、予定】令和5(2023)年度 小学校6校、養護学校(中)1校</p>	
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/ISQsvzNQXAQ
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: PW:

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 (公財)くにたち文化・スポーツ振興財団(くにたち市民芸術小ホール)】

対象	小学生(低学年)	○	/	
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	-		
企画名	小さな劇場「太陽のタネ」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>作・演出・美術:川口智子(演出家) 出演:新野将之(パーカッショニスト) 映像プラン:北川未来(映画監督) 舞台監督:横山弘之(アイジャクス) 照明プラン:木原立春(アイジャクス) 企画・制作:斎藤かおり/くにたち市民芸術小ホール</p> <p>※ホールでの初演について、別添 あり</p> <p style="text-align: right;">公演時間 35 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	小さな劇場「太陽のタネ」
	該当事項がある場合	権利者名 (公財)くにたち文化・スポーツ振興財団(くにたち市民芸術小ホール)	許諾確認状況	内部保有
演目概要	<p>【あらすじ】 一粒のタネが、ほとんど空から落ちてきた 小さな小さなタネは、大きな世界へ旅に出る 旅の途中、雨が降ったり、風が吹いたり、それから大きな〇〇が現れたり！ 旅の終わり、小さな小さなタネが出会ったのは・・・？！</p> <p>【みどころ】 セリフはなく、いろいろな音色の打楽器を使って、タネの旅する情景を音で楽しむ作品です。 出演者は1人だけですが、劇場空間が自然界の営みや、輝く太陽を思わせ、眼、耳、振動などの体感を使って子どもたちの想像力をかきたてる作品です。 小さな舞台でアーティストに親しみを持つことのできる距離で上演するため、子どもたちがリラックスして作品を楽しむことができます。</p>			
演目選択理由	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年12月に初演後、アシテジ(国際児童青少年舞台芸術協会)のネットワークであるITYARN(国際児童青少年舞台芸術研究ネットワーク)の児童演劇研究の専門家により、国内の先進事例として紹介されました。 ・小さな作品なので、子どもたちが安心し、リラックスしながら鑑賞することのできる作品です。 ・作・演出の川口智子、出演の新野将之は、それぞれ演劇・ワークショップや音楽の分野で子どもたちのワークショップや作品づくりの経験が豊富です。本演目においては、演劇と音楽、さらに映像の分野横断的な制作を行い、質の高い演目を生み出しています。 			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の中に、子どもたちがパーカッションと掛け合いを行う、コール&レスポンスの場面があります。 ・事前のワークショップで、子どもたちが演劇的に演目に参加する場面をつくり、その様子を撮影し公演内で投影します。 <p>★特別支援学校においては、内容を変更することなく、上演することができます。 音や振動で物語る演目のため、特に視覚に障害を持つ子どもたちも、楽しむことができます。 言語障害、知的障害を持つ子どもたちも、積極的に舞台を鑑賞できる演目です。</p>			
出演者	<p>新野将之(パーカッショニスト)</p> <p>昭和64年生まれ。埼玉県出身。国立音楽大学打楽器科を首席で卒業し、矢田部賞を受賞。読売新人演奏会に出演。イタリア国際打楽器コンクール、JEU国際金管打楽器コンクール、日本国際打楽器コンクールの全てにおいて最高位を受賞。その他にも受賞歴多数。 打楽器及びマリンバを上野信一・神谷百子・福田隆・寺田由美・小瀬和紀の各氏に師事、吹奏楽指導法及び指揮法を大澤健一氏に師事。 Black Swamp Percussion社・Thunderbolt percussion社エンドーサーアーティスト。東京コンサーツ所属アーティスト。 地域創造公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト(おんかつアーティスト)。</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	<p>出演者: 1 名</p> <p>スタッフ: 7 名</p> <hr/> <p>合計: 8 名</p>	運搬	<p>積載量: 0.25 t</p> <p>車長: 9 m</p> <p>台数: 1 台</p>	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		2.5	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	前日15:00:00	15:00-17:30	13:20~14:05	0分	14:10~15:30	15時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	10日	10日	10日	10日	
	11月	12月	1月	計	80日	
	10日	10日	10日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10-30名程度
		鑑賞人数目安	最大50名



体育館の舞台上ではなく、フロアに舞台面を設置。必要な広さは5m×3m。演奏家の後ろに幕をはり、映像を投影。子どもたちの観覧席は、持ちこみカーペットを使用。

公演に係るビジュアル
ルイメージ
(舞台の規模や演出が
わかる写真)



アーティスト(演奏家)は子どもたちの目の前で演奏。公演中、いくつかのやり取りの仕掛けや参加の手法が盛り込まれている。

※採択決定後、図
面等の提出をお願い
します。



公演後、時間に余裕があれば10分程度、演奏家と楽器に身近に触れることができる。

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	30名
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>・俳優が主指導者をつとめ、メインプログラムの演出家が補助者となり、学校の規模や地域の特性に合わせたワークショップを行います。 具体的には、子どもたちの身体を使った影絵で、「太陽のタネ」の旅を表現してもらいます。</p> <p>・コミュニケーションを子どもたち一人ひとりととることで、リラックスして参加してもらうことにつなげます。またそのことで、公演鑑賞に向けて期待感を抱かせます。</p> <p>・ワークショップの様子を映像作家が撮影します。その画像を公演のなかで投影し、子どもたちが作品そのものに参加してもらいます。</p> <p>・子どもたちがタネの旅のワンシーンを影絵で表現する「工作バージョン」もありますが、原則として前述の「身体影絵バージョン」で実施していきたい意向があります。</p> <p>【令和5年度 実施例】</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div> <p>俳優がタネの旅を実演。それをヒントに、子どもたちがタネの旅を演劇と美術（影絵操作と作成）で表現する。 ※ワークショップは状況により子どもたちがタネの旅のワンシーンを影絵で表現する「工作バージョン」もある。</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>・離島やへき地での小規模な公演を想定し、児童とより密な関係性をつくることで、児童にとって鑑賞体験がより印象深いものになります。</p> <p>・コミュニケーションゲームや演劇ワークショップを取り入れることで、音楽と演劇を横断する体験をし、より深く作品を理解することができます。</p> <p>・地域をテーマにして、児童のアイデアを取り入れながら、各学校のオリジナルの場面をつくることで、鑑賞だけでなく、創作に参加する体験をすることができます。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>実施校の状況（規模など）や、特に特別支援学校の児童生徒の状況に応じて内容を柔軟に変更対応していきます。</p> <p>《ご参考:実施校の児童コメント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えて発表した。みんなで役割を決めて協力しながら劇ができたからよかった。 ・いろんなものをつかって木やとりなどを表していてすごかった。 ・4分30秒間で考えた作品をつくるときに「こうしたいいよ」と気軽にヒントをくれたりしてくださってうれしかった。感想や質問の時ばくにあてようとしてくださってありがとうございました。 		

本事業への申請理由

【公演団体名 (公財)くたち文化・スポーツ振興財団(くたち市民芸術小ホール)】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>1) 当該作品は、誰もが劇場(的)空間に入りそこで行われる事柄(ステージアート)をともに体験することで作品を成立させることを趣旨としている。 特徴として言葉を使わず、観る人の創造性や発想力を刺激しながら展開していく。それにより芸術への親和性や鑑賞能力を高めることにつなげる。</p> <p>2) 出演者は観覧者(=児童・生徒)の反応を確かめながら上演する。また観覧者が作品の中に参加する要素を盛り込む演出を行う(例:コール(呼びかけ)&レスポンス(応答)、観覧者の身体を使ったボディー・パーカッションなど)。</p> <p>3) ワークショップは出演者・全スタッフが取り組み児童・生徒一人ひとりとのコミュニケーションを図ることで前述の趣旨・特徴をより確実に浸透させるために行う。</p> <p>4) 作品・運営ともコンパクトかつ即興性に富んでおり、各校の状況やニーズにできる限りの対応が可能。巡回公演事業の趣旨に応えることができる。</p> <p>5) ワークショップ指導者(=演出家、俳優)、出演者は現在国内外の第一線で活躍するアーティストであり、高品質で唯一無二の作品となっている。同時にワークショップ等の経験値も豊富で対応能力が高い。</p>
	<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>1) 舞台上で使用する楽器・機材・道具・客席はすべて持参し、搬出から設営、撤収までコンパクトに行える。また会場条件が異なっても同じクオリティーの高さを保つことができる。</p> <p>2) 演出家が同講師、各校の状況に応じてフレキシブルな演出を行うことができる。</p> <p>3) 出演者は即興演奏・対応が可能で、公演中の参加児童・生徒とのコミュニケーションを図りながら進行することができる。</p> <p>4) ワークショップと公演を内容面で連動させる。そのために訪問者(演奏家、ワークショップ指導者(=演出家)、スタッフ)全員がその双方に関わり、児童・生徒一人ひとりを把握しより効果的な事業展開に努める。</p> <p>5) 上記を徹底して遂行するため、事前に各校からの状況聴取、要望とのヒヤリングを電話、電子メール等を利用し行うことでコミュニケーションを図る。これまで当財団主催で手掛けてきた学校等でのワークショップ、アウトリーチ等の豊富な経験を活かし、各校の状況に寄り添った対応を心掛ける。</p>

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名 (公財)くにたち文化・スポーツ振興財団(くにたち市民芸術小ホール)】

<p>C区分で事業を実施するに当たっての工夫</p>	<p>① 離島・へき地等における公演実績 令和4年度巡回公演で6校訪問 令和5年度巡回公演で7校訪問(10月3日時点で、3校において実施済)</p> <p>② 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫 【特殊な事情がある地域での実施にあたっての工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演者1名、スタッフ7名という少人数編成で稼働力が高い。 ・舞台にかかる装置だけでなく、客席自体を持ち運ぶことで、設営をスムーズに行うとともに、異なる会場条件に対応し、高い質を保つことができる。 ・学校側に依頼するのは、会場の提供、脚立、通常範囲内での電力のみで、学校側に過大な負担をかけずに実施することができる。 <p>【小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演出家が同行するため、会場の条件に合わせて公演を調整することができる。 ・小人数および短時間での仕込み・撤収を安全に行うために、小規模公演用に組み立てが簡単な装置を持参する。 ・演出家は公演およびワークショップの経験が豊富である。子どもたち一人ひとりの状況を見て、コミュニケーションをとりながら事業を実施する。 ・ワークショップの主指導者は俳優がつとめることで、演劇的な要素を用い子どもたちを引き込むことができる。 <p>③ C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・運搬の困難さを想定し、楽器・道具類および出演者やスタッフの数を最低限にする。 ・出演者・スタッフは共に国内外での経験が豊富なメンバーである。限られた人数で、質の高い公演およびワークショップを実現する。 ・移動回数を少なくするため、公演当日にワークショップを行う。
----------------------------	--

リンク先 No.2

【公演団体名 (公財)くにたち文化・スポーツ振興財団(くにたち市民芸術小ホール)】

【ホールでの上演と会場の様子】



＝初演時の観客コメント＝

大自然の中にいるような心地よさ／小さな音の演奏の、小さなスペクタクル／子どもが自然とノリノリになる、引き込む雰囲気と音の力がある

【実施校でのようすと児童、先生コメント】



項目内容

- ・いろいろな音が聴けてたのしい、音が面白い、きれい
- ・知っている物でも「そんな使い方があるんだな」と思った
- ・こうそく(高速)でたいこをたたいているところがすごい
- ・はくりょく(迫力)があつてすごく上手い
- ・ぼくもたたけるようになりたい。いろいろなおとでためしてみたい、家でやってみたい
- ・みんなでまねするところ(＝コール&レスポンス)がとっても楽しい
- ・おもしろくてわらってたらなみだがでた
- ・知っているモノでも「そんな使い方があるんだな」と思った
- ・スクリーンにうつった動物のあしあとがこわかった
- ・パーカッションистが子どもたちに近い距離で演奏していたので身近に作品を感じ取ることができた。映像による効果もあり舞台芸術に対する関心もいっそう高まったと感じた。
- ・ワークショップ、公演とも普段の学校では観ることのない子どもたちの目の輝きだった。
- ・教職員も工夫された影絵のアイデアや公演の演出等に驚嘆していた。
- ・子どもたちは、ワークショップ、音楽劇を通して普段の学校教育ではできない「想像する大切さやおもしろさ」を肌で感じとっていたようだ。